

## 第1回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年5月28日（木） 午後3時30分～午後7時00分

場 所：新宮市民会館 大会議室

### 【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、勢古委員、向井委員、  
上路委員、片山委員（順不同）

### 【欠席委員】

丹羽委員

### 【事務局】

田岡市長、楠本教育長

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、小林主事、篠原主事

図書館：道前係長、中村主事

### ＜委嘱状交付＞

市長より各委員委嘱状を交付した。

### ＜市長あいさつ＞

新宮市総合計画における特進プロジェクトの新宮市文化複合施設整備へ具体的に取りかかることとなった。

昨年度、国土交通省の都市再構築戦略事業に文化複合施設整備を含めて採択された。事業費の半分の交付金となり財政負担が大変軽減される為、基本計画から大幅に変更せず整備出来ることとなった。

委員の皆様には想定工事費等、限られた条件の中で3つの機能をバランスよく融合し、市民や観光客などの来訪者が満足できる施設になるよう提言をいただきたい。

### ＜基本設計等検討委員会開会＞

### ＜教育長あいさつ＞

基本設計について皆さんの目で評価していただくため、委員委嘱をさせていただいた。熊野文化を謳う新宮市にふさわしい使い勝手の良い施設の整備に向けて検討いただきたい。

### ＜自己紹介＞

委員、設計者、事務局より自己紹介

## ＜会議次第 1. 委員長・副委員長選出＞

委員の互選により、委員長に堀内委員を選出した。  
堀内委員長より、副委員長に勢古委員が指名された。

## ＜会議次第 2. 基本設計等検討委員会の位置づけ及びスケジュール＞

### 【事務局】

本委員会では想定工事費や敷地面積等の建設条件を踏まえ、総合的な観点から施設の機能や配置・規模を検討し、庁内建設検討委員会へ基本計画の見直し及び基本設計への提言をいただきたい。

単なる意見表明の場ではなく、根拠性に重きを置いた論理的な話し合いを求める。

（庁内建設検討委員会は市の内部機関で、文化複合施設に係る最終決定を行う。）

### 【設計者】

新宮市文化複合施設にとって、いかに市民が施設の運営や企画等へ関わる事が出来るかが重要である。

昨今の公共施設の建設ではワークショップを経て共同の関係を築いて開館後の活動に繋げていく事が大きなテーマとなっている為、基本設計等検討委員会と並行してワークショップを進めたい。その後、具体的な施設の運営を検討する管理運営検討委員会に繋いでいく。

スケジュールについては、8月下旬におおまかな配置や各施設の機能、熊野学センターの内容等を検討して文化複合施設の骨格を決定し、9～10月に基本設計案を作成する。11月下旬には基本設計案より概算し、設計額が想定工事費内で収まるものかを確認する。超過した場合は課題を整理する。12月下旬に基本設計を決定する予定である。

### 【委員】

本委員会は庁内建設検討委員会へ提言を行う為の組織であり、庁内建設検討委員会の下部組織ではなく、設計者の下請けでもないと言う認識でよい。

### 【事務局】

その通り。基本設計は本委員会からの提言を尊重し、庁内建設検討委員会が決定し、最終的には市長が判断する。設計者には本委員会の内容を提言としてまとめていただく。

### 【委員】

ワークショップは本委員会が主催するものでなく、設計者が実施すると認識している。

### 【事務局】

市の事業だが、設計者に委託したものであり、ワークショップ等の実務は設計者が中心となって実施する。

### 【委員】

基本計画の策定には、相当な時間・労力を要してきた。市民ワークショップを行う場合、無駄になるのではないかな。

### 【設計者】

基本設計は基本計画を基に行う。白紙にするものではない。

**【委員】**

1 2 月までのスケジュールには多くの要素が含まれているが、時間は足りるのか。

**【設計者】**

ワークショップは基本計画を基に論点をしぼった内容で実施する。

**<会議次第 3. プロポーザル提案の説明>**

**【設計者】**

プロポーザルの提案はたたき台である。本委員会やワークショップの意見を拾い上げ、一つの形にまとめたいと考えている。

設計者よりプロジェクターで企画提案の概要を説明

**【委員】**

学問の基本は実物資料・文化財を収蔵、調査研究を行い、展示と言う流れとなる。熊野学センター部分の固有の収蔵・展示スペースがなく物足りないと感じる。

**【設計者】**

現在の案は収蔵 約 1 0 0 m<sup>2</sup>、展示も同程度確保している。今後の議論によって、全体面積の中で内容は変更可能である。

**【委員】**

木材を多用しているが、コストが上がるのではないか。

**【設計者】**

今後、地盤調査を実施するが木造は軽い為、基礎に杭を打つ必要がなくなる可能性があり、その場合はイニシャルコストが減少する。

**【委員】**

分棟では目的の施設にしか行かなくなるのではないか。

**【設計者】**

運営方法、導線の工夫で解決され则认为る。

**【委員】**

分棟にするとコスト面ではどのような影響が出るのか。

**【設計者】**

空調等を個別に設定出来る為、他の施設の開館時間に合わせる必要がなく、光熱水費を削減できる可能性が高い。

また、一般的に総面積の 6 % 程度を共有スペースにする場合が多いが、プロポーザル案はその共有スペースが屋外の広場でも良いのではないかと考えた結果である。同じ予算・総面積の場合、一体型では共有スペースが増加する為、分棟型の方が各施設の面積は多くなる。

**【委員】**

分棟形式では3つの施設の融合がイメージしにくい。エントランスに入ってから3つの機能が複合されているという高揚感を感じられる施設づくりを考えていた。

**【委員長】**

設計者は次回検討委員会で分棟案のメリットやデメリットを提示すること。

**【委員】**

ワークショップを開催すると、全く違う内容になる事が多々ある。開催しなくてもよいのではないかな。

**【設計者】**

今回のワークショップは、複合施設の運営等に関わっていただける人材を見つける事も大きな目的となっている。時期やテーマ、他の事例等について次回の委員会で詳しく説明したい。

**【委員】**

ワークショップの参加者は公募するのか。

**【設計者】**

公募する。ただし、公募だけでは参加者は少なくなる為、中高生等への声かけや多様な人物に来ていただく為に市民からの無作為抽出も考えている。誰でも参加可能である。

**【事務局】**

無作為抽出の実施は難しい。

**【委員】**

ワークショップは本委員会とはどのような関係性となるのか。

**【設計者】**

ワークショップは委員会が主催するものではない。誰でも参加可能で決定権はない。委員の皆さんにも毎回ではなくとも参加していただければと思っている。

**【委員】**

次回以降の委員会では、開催したワークショップの結果報告をお願いする。第2回以降のワークショップ開催のあり方については本委員会の意見を取り入れていただきたい。

**【委員長】**

第2回以降の内容は本委員会でも協議する。

**【委員】**

設計には運営方法の協議も必要ではないかな。

**【事務局】**

管理運営検討委員会は基本設計完了後に開催する予定である。委員の皆さんには管理運営検討委員会へも携わっていただきたいと考えている。施設内容の決定後に運営方法を協議していきたい。

**【委員】**

新宮城跡と施設を回遊する構造だが、大手門は整備可能なのか。不可能ならば意味がないのでは。

**【事務局】**

現状の資料から大手門を整備する事はできないが、大手道等により新宮城跡と施設の関係性を持つことは可能である。

#### **<会議次第 4. その他>**

##### **【事務局】**

第1回ワークショップは6月28日（日）の予定で調整中である。

本委員会は基本的には各月の最終木曜日に開催するものとする。ただし、次回の委員会は都合により7月9日（木）もしくは13日（月）で調整する。

#### **<閉会>**